

沖縄担当大使通信
第7回 慰霊の日

2026年（令和8年）6月30日



沖縄全戦没者追悼式前夜祭での琉球古典音楽合同献奏
(2026年6月22日、於：沖縄平和祈念堂)

6月23日は「慰霊の日」です。1945年のこの日、沖縄戦における日本軍の組織的戦闘が終了しました。沖縄県は条例でこの日を「慰霊の日」と定め、沖縄全戦没者追悼式をはじめとする一連の行事が開催されてきました。

私は沖縄担当大使として、着任後初めて慰霊の日を迎えました。6月22日に沖縄平和祈念堂での前夜祭に参列した後、23日には茂木外務大臣の国立沖縄戦没者墓苑及び栃木の塔での献花に同行し、沖縄全戦没者追悼式に出席して献花を行いました。

慰霊の日には、多くの人たちが沖縄戦の歴史を振り返り、戦没者を追悼するとともに、平和な世界を築くために新たな一歩を踏み出します。今回、オーストラリア北部準州から歴史平和研修のために沖縄を訪問した高校生の皆さんからお話を伺いました。今月の沖縄担当大使通信では、私が初めて沖縄で慰霊の日の関連行事に出席して感じたこと、考えたことを報告させていただきます。



茂木外務大臣の国立沖縄戦没者墓苑での献花
(2026 年 6 月 23 日、於：沖縄県営平和祈念公園)

●沖縄全戦没者追悼式

慰霊の日の 6 月 23 日、沖縄県と沖縄県議会が主催して、糸満市摩文仁の平和祈念公園で[令和 8 年沖縄全戦没者追悼式](#)が開催されました。中川沖縄県議会議長が式辞を述べ、正午に参列者が黙祷しました。引き続き、沖縄県遺族会連合会会長の追悼のことば、主要参列者の献花、玉城沖縄県知事の平和宣言、生徒代表の「平和の詩」朗読、高市内閣総理大臣、森衆議院議長、関口参議院議長の来賓あいさつが行われました。[茂木外務大臣も参列](#)し、沖縄戦において戦場に斃れられた御霊、戦禍に遭われ亡くなられた御霊に哀悼の誠を捧げました。茂木大臣は、国立沖縄戦没者墓苑及び栃木の塔での献花も行いました。

私は外務大臣に同行して沖縄全戦没者追悼式に参列し、戦没者を追悼するとともに、平和を実現するための決意を新たにしました。1987 年に外務省に入省して以来、様々な部局で戦争と和解の問題に関わってきました。1995 年の戦後 50 年は外務本省で英国の戦争捕虜問題を担当し、2015 年の戦後 70 周年は南スーダンで平和構築に取り組み、2020 年の戦後 75 周年はシドニー在勤時に多くの日豪和解行事に参列しました。沖縄戦の惨禍と沖縄の人たちの思いを受けとめて外務省の取組に生かすべく、努力を積み重ねていきたいと思ひます。



沖縄全戦没者追悼式前夜祭での琉球舞踊・宮古舞踊献納
(2026年6月22日、於：沖縄平和祈念堂)

●前夜祭

慰霊の日に際して、沖縄全戦没者追悼式の他にも、沖縄県遺族連合会による平和祈願慰霊大行進、沖縄県平和祈念財団による「平和の光の柱」・チャリティライブ、沖縄県平和祈念資料館・沖縄平和祈念堂の無料公開などが行われています。私は外務省沖縄担当大使として公益財団法人沖縄協会の招待を受け、6月22日に沖縄平和祈念堂での[沖縄全戦没者追悼式前夜祭](#)に参列しました。

沖縄平和祈念堂は1978年10月に開堂し、沖縄平和祈念像や連作絵画「戦争と平和」などが安置・展示されています。この祈念堂が開堂した直後の1979年から前夜祭が毎年開催され、今回で48回目になるとのことです。

第一部の式典では、献火・献鐘・黙祷・鎮魂のことば・献花があり、第二部の琉球古典音楽献奏及び琉球舞踊・宮古舞踊奉納では、琉球古典音楽三流五派と琉球箏曲二派、琉球舞踊（宮古舞踊）家が伝統芸能を披露しました。会場には、遺族が多数参列していました。

今回、沖縄平和祈念堂で初めてこの歴史ある行事に参列して献花を行い、心のこもった伝統芸能を鑑賞して、沖縄の平和と伝統への思いを実感しました。



自衛隊・米軍関係者有志による慰霊碑清掃活動
(2026 年 6 月 13 日、於：沖縄県営平和祈念公園)

●慰霊碑清掃活動

追悼行事は、過去を振り返りながら、未来に向けて和解や交流、協力を推進する機会でもあります。慰霊の日に先立つ 6 月 13 日の土曜日、陸・海・空自衛官、米軍、自衛隊協力者、家族などの有志により、糸満市摩文仁の平和祈念公園で慰霊碑清掃活動が行われました。あいにくの空模様でしたが、約 1,000 人が哀悼の心を込めて慰霊碑と公園敷地内を清掃し、瞬く間に綺麗になったとのこと。

また、慰霊の日には、USO (United Service Organizations) 沖縄と在沖米国商工会議所の主催の追悼式も開催され、スナイプ米国臨時代理大使やオウ在沖米国総領事をはじめ多数が参加しました。

このような一つ一つの活動や行事を通じて、沖縄戦の惨禍に思いを致しながら、未来に向けての協力関係が強化されていくことを願っています。



北部準州高校生との意見交換（2026年6月26日、於：外務省沖縄事務所）

●オーストラリア北部準州高校生の歴史平和研修

本年は、慰霊の日の時期に合わせて、オーストラリア北部準州（Northern Territory）首席大臣府の事業として、同準州の高校生7名が引率者2名とともに[歴史平和研修](#)で沖縄を訪問しました。一行は、6月23日の沖縄全戦没者追悼式に参列した他、那覇国際高校の生徒と交流し、平和祈念資料館、ひめゆりの塔、対馬丸記念館、シムクガマ、かでな道の駅、首里城などを回って、沖縄の歴史とともに日米豪の戦争と和解・協力の歴史を学び、考えを深めました。

私自身、2019年から2022年に在シドニー総領事として北部準州を担当していた時は、毎年2月19日に北部準州で開催される[ダーウィン空爆戦没者追悼式典に参列](#)しました。そこで、戦争と和解、交流と協力の歴史を振り返り、それを日豪双方の関係者が共有することで、未来への協力の基盤が確固たるものになると実感しました。

6月26日、台風の直後に高校生一行は外務省沖縄事務所を訪問し、今回の研修の成果を伺うことができました。この高校生たちが、新たな時代に日豪、さらにはインド太平洋地域と世界の平和の実現をリードするよう願っています。



ウチナーンチュ移民の日・交流会（2026年6月18日、於：那覇市内ホテル）

●ウチナーンチュ移民の日

慰霊の日とは別の話題ですが、前の週の6月18日に、[ウチナーンチュ移民の日・交流会](#)が那覇市内で開催されました。沖縄パンアメリカン連合会は、6月18日の「海外移住の日」に合わせて30年以上にわたり「移民の日・交流会」を開催してきました。昨年、この日を感謝と絆の「6月18日ウチナーンチュ移民の日」として宣言したとのことです。

第一部の報告会では、沖縄県の森山美智子・第8回世界のウチナーンチュ大会開催準備室長から、海外で暮らす約42万人のウチナーンチュ（沖縄県系人）の移民と交流の歴史や、来年10月に開催予定の[第8回世界のウチナーンチュ大会](#)に向けての準備状況について説明がありました。第二部の懇親会では、米国、ブラジル、韓国、台湾、アルゼンチン、ボリビア出身のウチナーンチュ子弟等留学生により、踊りや歌が披露されました。

私からは、外務省は日系社会との連携強化に取り組んでいること、第8回世界のウチナーンチュ大会の成功に向けて外務省沖縄事務所も協力・貢献する考えであることを伝えました。



糸満ハーレー（2026年6月18日、於：糸満漁港）

●沖縄各地でのハーレー

そして、6月は沖縄各地でハーレーが開催されています。6月18日（旧暦5月4日）には、航海安全と大漁・豊漁を祈願するために、[糸満ハーレー](#)が開催されました。港内をまわるパレードや、古来の伝統儀式に則った御願（ウガン）バーレーには伝統の重みを感じました。

今回、沖縄で慰霊の日に際しての一連の行事に私自身初めて参加して、戦没者を追悼するとともに、平和を実現するための決意を新たにしました。これからも、沖縄の歴史や文化・伝統について理解を深め、沖縄の皆様の声に耳を傾けるとともに、世界各地で平和や和解、交流や協力を推進してきた経験も生かすことで、この沖縄から平和で豊かな世界を築くために日々努力していきたいと思えます。引き続きよろしくお願い申し上げます。

沖縄担当大使
紀谷昌彦